

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	約5年間(2017年8月23日～2022年8月19日)	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド(日本円クラス)」(以下「モメンタム・アロケーター・ファンド(日本円クラス)」)といひます。)の受益証券(円建) ロ、ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ、ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)」(以下「モメンタム・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)」)といひます。)の受益証券(円建) ロ、ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
当ファンドの運用方法	為替ヘッジあり	①主として、モメンタム・アロケーター・ファンド(日本円クラス)の受益証券を通じて、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象とし、あらかじめ定めるルールに基づいて各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目するモメンタム戦略のパフォーマンスを享受することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。 ②当ファンドは、モメンタム・アロケーター・ファンド(日本円クラス)とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、モメンタム・アロケーター・ファンド(日本円クラス)への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③モメンタム・アロケーター・ファンド(日本円クラス)では、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。
	為替ヘッジなし	①主として、モメンタム・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)の受益証券を通じて、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象とし、あらかじめ定めるルールに基づいて各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目するモメンタム戦略のパフォーマンスを享受することで、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざします。 ②当ファンドは、モメンタム・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資するファンド・オブ・ファンズです。通常の状態、モメンタム・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)への投資割合を高位に維持することを基本とします。 ③モメンタム・アロケーター・ファンド(米ドル・クラス)では、為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。
マザーファンドの運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。	
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率 無制限 マザーファンドの株式組入上限比率 純資産総額の10%以下	
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

# ダイワDBモメンタム 戦略ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

## 運用報告書(全体版) 第1期

(決算日 2018年2月19日)

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)」は、このたび、第1期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先(コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00～17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/> <2721>

<2722>

為替ヘッジあり

## 設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額	
	(分配落)	税 込 分 配 金				期 騰 落 率
1 期末 (2018年 2 月19日)	円 10,410	円 150	% 5.6	% —	% 98.2	百万円 25,901

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

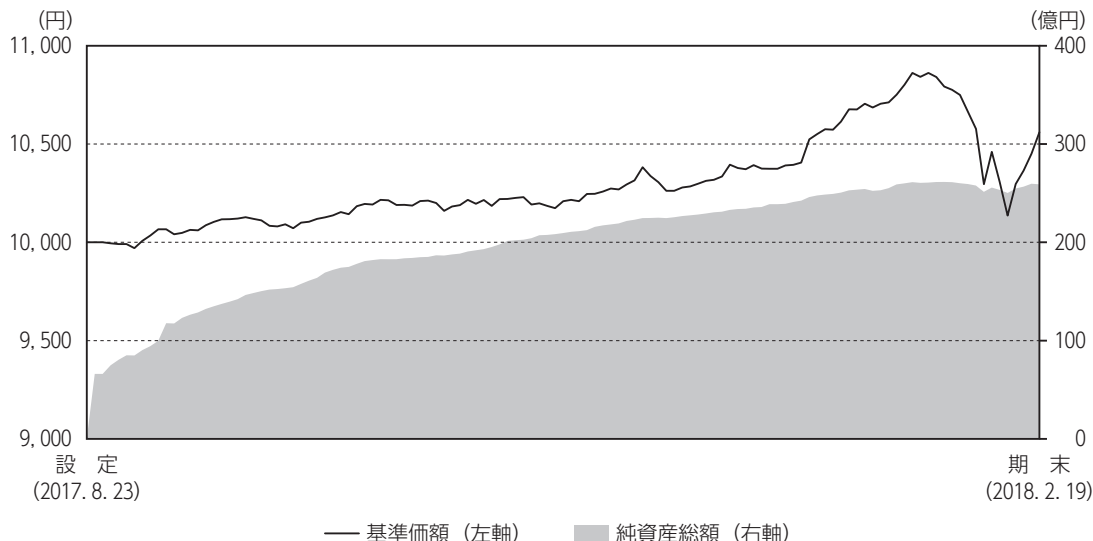
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：10,410円（分配金150円）

騰落率：5.6%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の主な変動要因

主にオージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）（以下「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」といいます。）の上昇が寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行なった結果、米国の株式および金が増加したことがプラスに寄与しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組 入 比 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(設定)2017年 8月23日	10,000	—	—	—
8月末	10,007	0.1	—	93.4
9月末	10,100	1.0	—	96.3
10月末	10,216	2.2	—	98.2
11月末	10,294	2.9	—	97.9
12月末	10,394	3.9	—	98.8
2018年 1月末	10,793	7.9	—	98.2
(期末)2018年 2月19日	10,560	5.6	—	98.2

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

**投資環境について**

(2017. 8. 23 ~ 2018. 2. 19)

**■米国株式市況**

米国株式市況は上昇しました。設定時から2017年12月下旬にかけて、原油価格が上昇したことや米国の税制改革に進展が見られたことならびに世界的に企業業績が好調だったことから、米国株式市況は継続的に上昇しました。2018年1月に入っても、規制当局が金融規制の一段の緩和に向けて取り組むとの報道もあり、さらに上昇しました。2月に入ると、好調な経済指標を通して経済の力強さが示された一方、急ピッチで進む金利上昇による株式市場への悪影響が懸念され、大幅に調整が進みました。期末にかけては、市場が落ち着きを取り戻すに連れて安心感が広がり、反発しました。

**■米国長期金利**

米国長期債市況は下落しました。設定時より、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で2017年中の追加利上げが示唆されたことなどから米国金利が上昇し、米国長期債市況は下落して始まりしました。その後も、イエレンFRB（米国連邦準備制度理事会）議長（当時）が米国の景気に対して楽観的な発言をしたことや、米国の税制改革に進展が見られたことなどを受けて長期金利が上昇し、下落が続きました。

**■金**

金価格は上昇しました。設定時から2017年9月上旬にかけては、北朝鮮情勢をめぐる緊張の高まりからリスクオフのムードとなり、上昇しました。9月中旬から12月上旬にかけては、米国の金利高・株高の流れに伴い米ドル需要が高まったほか、好調な米国企業業績や堅調な米国経済指標を受けて経済への楽観が広がり、下落する展開となりました。12月中旬から2018年1月下旬にかけては、北朝鮮や中東地域の地政学的リスクが意識されたほか、米ドル安を背景に米ドル建ての金価格は割安感から上昇しましたが、その後は下落に転じました。

**■米ドルキャッシュ**

米国の短期金利は政策金利1.25~1.50%（年率）近辺で推移し、米国短期債市況は緩やかに上昇しました。

**■短期金利市況**

日本では、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続し、短期金利は低位で推移しました。一方、FRBは2017年12月に政策金利の誘導目標を0.25%ポイント引き上げ、1.25~1.50%としました。

## ポートフォリオについて

(2017. 8. 23 ~ 2018. 2. 19)

### ■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持しました。

### ■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行ないました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールにもとづき、配分比率の変更を行ないました。当期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行ない、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

### 各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2017年 8 月末	9 月末	10 月末	11 月末	12 月末	2018年 1 月末
米国株式	65.7%	60.9%	61.0%	61.1%	61.1%	61.1%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金	10.7%	19.0%	22.6%	22.6%	25.6%	30.5%
米ドルキャッシュ	23.6%	20.0%	16.3%	16.3%	13.3%	8.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

### ■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローンによる運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は150円といたしました。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■ 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2017年8月23日 ～2018年2月19日	
当期分配金（税込み）（円）		150
対基準価額比率（％）		1.42
当期の収益（円）		150
当期の収益以外（円）		—
翌期繰越分配対象額（円）		410

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■ 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	417.29
(c) 収益調整金	143.31
(d) 分配準備積立金	0.00
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	560.60
(f) 分配金	150.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	410.60

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールにもとづき、配分比率の変更を行いません。また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

### ■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行いません。



## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2017. 8. 23～2018. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	59円	0.576%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,297円です。
(投 信 会 社)	(19)	(0.187)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0.375)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.004	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	60	0.580	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

### ■売買および取引の状況

#### (1) 投資信託受益証券

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
外国 (邦貨建)	千口	千円	千口	千円
	240,044.667	24,340,000	964.608	100,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

#### (2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	6,592	6,600	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

### ■主要な売買銘柄

#### 投資信託受益証券

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

当 期				期 末			
買 付	□ 数	金 額	平均単価	売 付	□ 数	金 額	平均単価
銘 柄	千口	千円	円	銘 柄	千口	千円	円
ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS (ケイマン諸島)	240,044.667	24,340,000	101	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS (ケイマン諸島)	964.608	100,000	103

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

### ■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

### ■組入資産明細表

#### (1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島)	千口	千円	%
ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS	239,080.058	25,444,812	98.2

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

### ■投資信託財産の構成

2018年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円	%
投資信託受益証券	25,444,812	96.3
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	6,598	0.0
コール・ローン等、その他	978,089	3.7
投資信託財産総額	26,429,499	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

#### (2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	千口	千円
	6,592	6,598

(注) 単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年2月19日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>26,429,499,586円</b>
コール・ローン等	978,089,078
投資信託受益証券（評価額）	25,444,812,486
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	6,598,022
<b>(B) 負債</b>	<b>528,198,236</b>
未払収益分配金	373,199,673
未払解約金	39,398,653
未払信託報酬	114,799,074
その他未払費用	800,836
<b>(C) 純資産総額（A－B）</b>	<b>25,901,301,350</b>
元本	24,879,978,249
次期繰越損益金	1,021,323,101
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>24,879,978,249口</b>
1万口当り基準価額（C／D）	10,410円

\* 設定時における元本額は6,611,711,734円、当期中における追加設定元本額は19,530,871,599円、同解約元本額は1,262,605,084円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,410円です。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	1,038,216,963
(c) 収益調整金	356,556,766
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	1,394,773,729
(f) 分配金	373,199,673
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	1,021,574,056
(h) 受益権総口数	24,879,978,249口

■損益の状況

当期 自 2017年8月23日 至 2018年2月19日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 147,306円</b>
受取利息	5,794
支払利息	△ 153,100
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>1,153,814,929</b>
売買益	1,204,812,487
売買損	△ 50,997,558
<b>(C) 信託報酬等</b>	<b>△ 115,599,910</b>
<b>(D) 当期損益金（A＋B＋C）</b>	<b>1,038,067,713</b>
<b>(E) 追加信託差損益金</b>	<b>356,455,061</b>
(配当等相当額)	(△ 101,705)
(売買損益相当額)	( 356,556,766)
<b>(F) 合計（D＋E）</b>	<b>1,394,522,774</b>
<b>(G) 収益分配金</b>	<b>△ 373,199,673</b>
<b>次期繰越損益金（F＋G）</b>	<b>1,021,323,101</b>
追加信託差損益金	356,455,061
(配当等相当額)	(△ 101,705)
(売買損益相当額)	( 356,556,766)
分配準備積立金	665,017,290
繰越損益金	△ 149,250

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表をご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	150円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、2月19日現在の基準価額（1万口当り10,410円）に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純 資 産 総 額	
	(分配落)	税 込 分 配 金				期 中 騰 落 率
1 期末 (2018年 2 月19日)	円 10,324	円 100	% 4.2	% —	% 96.6	百万円 61,325

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

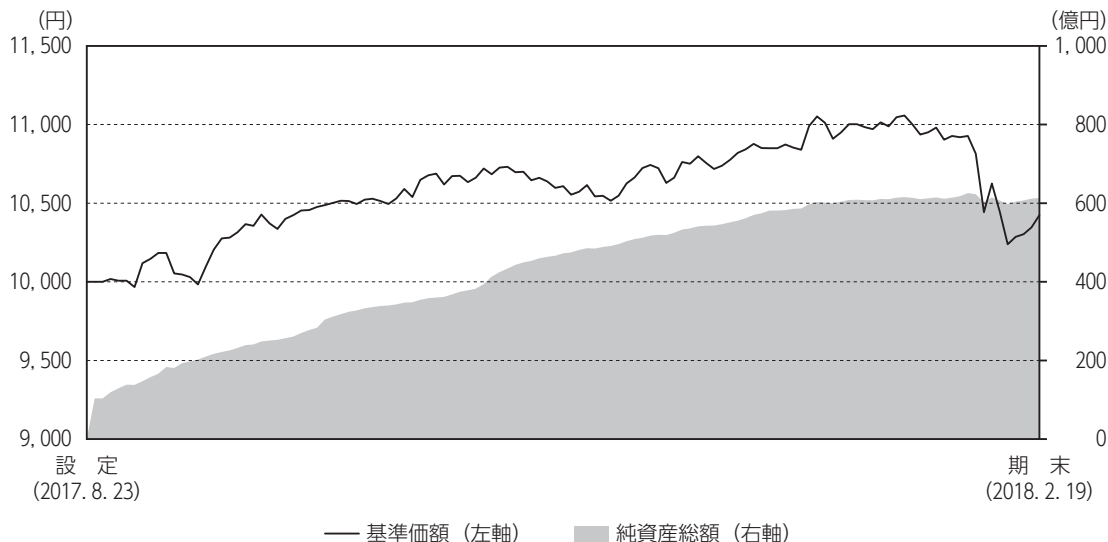
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



## 運用経過

### 基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

#### ■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

期末：10,324円（分配金100円）

騰落率：4.2%（分配金込み）

#### ■ 基準価額の変動要因

主にオージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）（以下「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」といいます。）の上昇が寄与し、基準価額は上昇しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行なった結果、米ドルが対円で下落したことはマイナス要因となりましたが、米国の株式および金が上昇したことがプラスに寄与しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率		
		公 社 債 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	組 入 比 率
(設定)2017年 8月23日	円 10,000	% —	% —	% —
8月末	10,118	1.2	—	94.3
9月末	10,453	4.5	—	94.4
10月末	10,634	6.3	—	98.2
11月末	10,626	6.3	—	98.2
12月末	10,853	8.5	—	98.9
2018年 1月末	10,904	9.0	—	98.5
(期末)2018年 2月19日	10,424	4.2	—	96.6

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定比。

## 投資環境について

(2017. 8. 23 ~ 2018. 2. 19)

### ■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。設定時から2017年12月下旬にかけて、原油価格が上昇したことや米国の税制改革に進展が見られたことならびに世界的に企業業績が好調だったことから、米国株式市況は継続的に上昇しました。2018年1月に入っても、規制当局が金融規制の一段の緩和に向けて取り組むとの報道もあり、さらに上昇しました。2月に入ると、好調な経済指標を通して経済の力強さが示された一方、急ピッチで進む金利上昇による株式市場への悪影響が懸念され、大幅に調整が進みました。期末にかけては、市場が落ち着きを取り戻すに連れて安心感が広がり、反発しました。

### ■米国長期金利

米国長期債市況は下落しました。設定時より、FOMC（米国連邦公開市場委員会）で2017年中の追加利上げが示唆されたことなどから米国金利が上昇し、米国長期債市況は下落して始まりしました。その後も、イエレンFRB（米国連邦準備制度理事会）議長（当時）が米国の景気に対して楽観的な発言をしたことや、米国の税制改革に進展が見られたことなどを受けて長期金利が上昇し、下落が続きました。

### ■金

金価格は上昇しました。設定時から2017年9月上旬にかけては、北朝鮮情勢をめぐる緊張の高まりからリスクオフのムードとなり、上昇しました。9月中旬から12月上旬にかけては、米国の金利高・株高の流れに伴い米ドル需要が高まったほか、好調な米国企業業績や堅調な米国経済指標を受けて経済への楽観が広がり、下落する展開となりました。12月中旬から2018年1月下旬にかけては、北朝鮮や中東地域の地政学的リスクが意識されたほか、米ドル安を背景に米ドル建ての金価格は割安感から上昇しましたが、その後は下落に転じました。

### ■米ドルキャッシュ

米国の短期金利は政策金利1.25~1.50%（年率）近辺で推移し、米国短期債市況は緩やかに上昇しました。

### ■米ドル円為替相場

米ドルは対円で下落しました。設定時から2017年10月下旬にかけては、FOMCで2017年中の追加利上げの可能性が示唆され米国金利が上昇したことなどから、米ドルは対円で上昇しました。11月から12月にかけては方向感のない動きとなりましたが、2018年1月に入ると、米国のムニョーシン財務長官による米ドル安容認発言などを受けて、米ドルは対円で下落しました。期末にかけては、市場のリスク回避的な姿勢が強まり続落しました。



ポートフォリオについて

(2017. 8. 23 ~ 2018. 2. 19)

■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資しました。モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行ないました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールにもとづき、配分比率の変更を行ないました。当期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行ない、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2017年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2018年1月末
米国株式	65.7%	60.9%	61.0%	61.1%	61.1%	61.1%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金	10.7%	19.0%	22.6%	22.6%	25.6%	30.5%
米ドルキャッシュ	23.6%	20.0%	16.3%	16.3%	13.3%	8.5%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローンによる運用を行ないました。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

## 分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は100円といたしました。

収益分配金の決定根拠は下記の「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

### ■ 分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2017年8月23日 ～2018年2月19日	
当期分配金（税込み）	（円）	100
対基準価額比率	（％）	0.96
当期の収益	（円）	—
当期の収益以外	（円）	100
翌期繰越分配対象額	（円）	324

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

### ■ 収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0.00円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0.00
(c) 収益調整金	424.22
(d) 分配準備積立金	0.00
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	424.22
(f) 分配金	100.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	324.22

（注）下線を付した該当項目から分配金を計上しています。



## 今後の運用方針

### ■当ファンド

モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）とダイワ・マネーアセット・マザーファンドに投資します。また、モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）への投資割合を高位に維持することを基本とします。

### ■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いません。

### ■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行いません。

## 1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2017. 8. 23～2018. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	61円	0.576%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,591円です。
(投 信 会 社)	(20)	(0.187)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.375)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0.013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	0	0.003	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	61	0.578	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注3) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注4) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

(1) 投資信託受益証券

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

	買 付		売 付	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
外国 (邦貨建)	573,658.635	59,920,000	9,654.653	1,000,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ・マネー アセット・ マザーファンド	10,288	10,300	—	—

(注) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

投資信託受益証券

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

当 期				期 末			
買 付		売 付		買 付		売 付	
銘 柄	□ 数	金 額	平均単価	銘 柄	□ 数	金 額	平均単価
	千口	千円	円		千口	千円	円
ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS (ケイマン諸島)	573,658.635	59,920,000	104	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS (ケイマン諸島)	9,654.653	1,000,000	103

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期 末		
	□ 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS	564,003.982	59,244,106	96.6

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2018年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	59,244,106	95.3
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	10,296	0.0
コール・ローン等、その他	2,943,881	4.7
投資信託財産総額	62,198,285	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	当 期 末	
	□ 数	評 価 額
	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・ マザーファンド	10,288	10,296

(注) 単位未満は切捨て。

## ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

### ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2018年2月19日現在

項 目	当 期 末
<b>(A) 資産</b>	<b>62,198,285,097円</b>
コール・ローン等	2,943,881,891
投資信託受益証券（評価額）	59,244,106,293
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	10,296,913
<b>(B) 負債</b>	<b>872,611,790</b>
未払収益分配金	594,004,527
未払解約金	28,121,607
未払信託報酬	249,414,939
その他未払費用	1,070,717
<b>(C) 純資産総額（A - B）</b>	<b>61,325,673,307</b>
元本	59,400,452,783
次期繰越損益金	1,925,220,524
<b>(D) 受益権総口数</b>	<b>59,400,452,783口</b>
1万口当り基準価額（C / D）	10,324円

\* 設定時における元本額は10,349,053,475円、当期中における追加設定元本額は51,438,739,124円、同解約元本額は2,387,339,816円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,324円です。

### ■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	0円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	0
(c) 収益調整金	2,519,900,285
(d) 分配準備積立金	0
(e) 当期分配対象額（a + b + c + d）	2,519,900,285
(f) 分配金	594,004,527
(g) 翌期繰越分配対象額（e - f）	1,925,895,758
(h) 受益権総口数	59,400,452,783口

### ■損益の状況

当期 自 2017年8月23日 至 2018年2月19日

項 目	当 期
<b>(A) 配当等収益</b>	<b>△ 342,019円</b>
受取利息	10,653
支払利息	△ 352,672
<b>(B) 有価証券売買損益</b>	<b>217,883,850</b>
売買益	332,785,926
売買損	△ 114,902,076
<b>(C) 信託報酬等</b>	<b>△ 250,485,656</b>
<b>(D) 当期損益金（A + B + C）</b>	<b>△ 32,943,825</b>
<b>(E) 追加信託差損益金</b>	<b>2,552,168,876</b>
（配当等相当額）	（△ 330,173）
（売買損益相当額）	（ 2,552,499,049）
<b>(F) 合計（D + E）</b>	<b>2,519,225,051</b>
<b>(G) 収益分配金</b>	<b>△ 594,004,527</b>
次期繰越損益金（F + G）	1,925,220,524
追加信託差損益金	1,958,164,349
（配当等相当額）	（△ 330,173）
（売買損益相当額）	（ 1,958,494,522）
繰越損益金	△ 32,943,825

（注1）信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

（注2）追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

（注3）収益分配金の計算過程は「収益分配金の計算過程（総額）」の表をご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金	100円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、2月19日現在の基準価額（1万口当り10,324円）に基づいて自動的に再投資いたしました。

#### 分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・普通分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

当ファンドは少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」および未成年者少額投資非課税制度「ジュニアNISA」の適用対象です。非課税口座における取扱いについては販売会社にお問い合わせください。

オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド  
(日本円クラス/米ドル・クラス)

当ファンド(ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジあり/為替ヘッジなし))の主要投資対象であるケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド(日本円クラス/米ドル・クラス)」は、2017年12月31日に第1期決算を行なっておりますが、2018年2月19日現在では決算情報を入手できておりません。



<補足情報>

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2017年12月11日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2018年2月19日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を24ページに併せて掲載いたしました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄  
公 社 債

(2017年8月23日から2018年2月19日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
707 国庫短期証券 2017/12/11	千円 70,000		千円

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

2018年2月19日現在、有価証券等の組み入れはありません。

# ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

## 運用報告書 第6期 (決算日 2017年12月11日)

(計算期間 2016年12月10日～2017年12月11日)

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの第6期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

### ★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
運用方法	①円建ての債券を中心に投資し、安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。 ②円建資産への投資にあたっては、残存期間が1年未満、取得時においてA-2格相当以上の債券およびコマーシャル・ペーパーに投資することを基本とします。
株式組入制限	純資産総額の10%以下

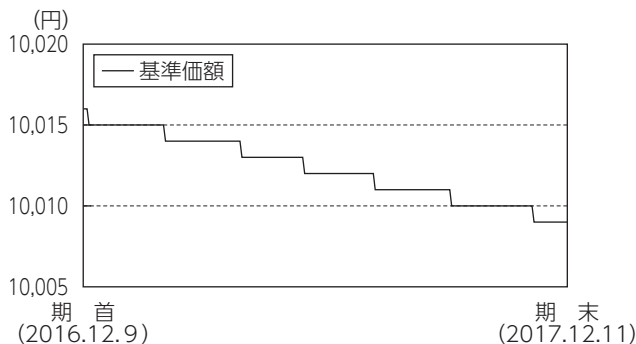
## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 率
	騰 落 率	組 入 比 率	
(期首)2016年12月9日	円	%	%
	10,016	-	28.2
12月末	10,015	△0.0	-
2017年1月1日	10,015	△0.0	31.1
2月末	10,014	△0.0	25.3
3月末	10,014	△0.0	-
4月末	10,013	△0.0	35.3
5月末	10,012	△0.0	5.1
6月末	10,012	△0.0	0.6
7月末	10,011	△0.0	0.1
8月末	10,011	△0.0	-
9月末	10,010	△0.1	-
10月末	10,010	△0.1	-
11月末	10,009	△0.1	-
(期末)2017年12月11日	10,009	△0.1	-

(注1) 騰落率は期首比。  
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。  
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：10,016円 期末：10,009円 騰落率：△0.1%

【基準価額の主な変動要因】

低金利環境が継続したことなどから、基準価額は下落しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

期首より、日銀は「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持しました。このような日銀の金融政策を背景に、国庫短期証券（3カ月物）の利回りおよび無担保コール翌日物金利はマイナス圏で推移しました。

◆前期における「今後の運用方針」

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

◆ポートフォリオについて

流動性と資産の安全性に配慮し、短期の国債およびコール・ローン等による運用を行ないました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性と資産の安全性に配慮し、安定的な運用を行ないます。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用 (その他)	0 (0)
合 計	0

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■売買および取引の状況  
公 社 債

(2016年12月10日から2017年12月11日まで)

		買 付 額	売 付 額
国		千円	千円
内	国債証券	33,310,870	(36,270,000)

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) ( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。  
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄  
公 社 債

(2016年12月10日から2017年12月11日まで)

当		期	
買	付	売	付
銘	柄 金 額	銘	柄 金 額
	千円		千円
645	国庫短期証券 2017/2/20		4,280,100
669	国庫短期証券 2017/6/12		3,020,099
657	国庫短期証券 2017/4/17		2,860,055
659	国庫短期証券 2017/4/24		2,650,077
652	国庫短期証券 2017/3/27		2,530,020
642	国庫短期証券 2017/2/6		2,410,036
644	国庫短期証券 2017/5/12		2,070,088
651	国庫短期証券 2017/3/21		1,970,049
660	国庫短期証券 2017/5/1		1,450,027
638	国庫短期証券 2017/1/16		1,270,010

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。  
 (注2) 単位未満は切捨て。

# ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

## ■組入資産明細表

当期末における有価証券等の組み入れはありません。

## ■投資信託財産の構成

2017年12月11日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	17,415,714	100.0
投資信託財産総額	17,415,714	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

## ■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年12月11日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	17,415,714,754円
コール・ローン等	17,415,714,754
(B) 負債	—
(C) 純資産総額(A - B)	17,415,714,754
元本	17,399,953,390
次期繰越損益金	15,761,364
(D) 受益権総口数	17,399,953,390口
1万口当り基準価額(C / D)	10,009円

\* 期首における元本額は10,476,400,958円、当期中における追加設定元本額は9,625,428,641円、同解約元本額は2,701,876,209円です。

\* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジあり) 999円、ダイワ債券コア戦略ファンド(為替ヘッジなし) 999円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αクワトロプレミアム(毎月分配型) 219,583円、通貨選択型ダイワ米国株主還元株αクワトロプレミアム(年2回決算型) 24,953円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(毎月分配型) 848,389円、ダイワ米国株主還元株ツインαプレミアム(年2回決算型) 66,873円、ダイワ米国株主還元株ファンド36,730,213円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジあり) 6,592,748円、ダイワDBモメンタム戦略ファンド(為替ヘッジなし) 10,288,683円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(年1回決算型) 4,995円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(年1回決算型) 4,995円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-04(為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-07(為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、世界ハイブリッド証券ファンド2014-10(為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、世界ハイブリッド証券ファンド2015-01(為替ヘッジあり/限定追加型) 999円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハインカム-α50コース49,911円、ダイワ・ブラジル・レアル債α(毎月分配型) -スーパー・ハインカム- α100コース49,911円、ダイワ・オーストラリア高配当株ファンド・マネー・ポートフォリオ32,460,107円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト11 Ver 3-858,588,190円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト11 Ver 6-3,325,620,751円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト11 Ver 7-828,595,357円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト11 Ver 4-3,326,673,327円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト12 Ver 2-549,443,563円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド-シフト11 Ver 5-2,095,808,384円、ダイワ円債セレクト マネーコース808,108,471円、ダイワ・スイス高配当株ツインα(毎月分配型) 2,996,106円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 為替ヘッジなしコース5,990,216円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 日本円コース1,397,544円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) ブラジル・レアル・コース3,994,008円、通貨選択型ダイワ世界インカム・ハンター(毎月分配型) 通貨セレクト・コース1,597,623円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジあり40,885円、ダイワ世界インカム・ハンター(年2回決算型) 為替ヘッジなし100,789円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジあり(毎月分配型) 1,235円、ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 為替ヘッジなし(毎

月分配型) 1,598円、通貨選択型 ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 日本円コース(毎月分配型) 1,544円、通貨選択型 ダイワ/NB・米国債券戦略ファンド 通貨セレクトコース(毎月分配型) 1,984円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド(限定追加型) -シフト11-3,536,610,361円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド(限定追加型) -シフト12-679,321,043円、ダイワ日本株式インデックス・ファンド(限定追加型) -シフト13-1,287,713,056円です。

\* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,009円です。

## ■損益の状況

当期 自2016年12月10日 至2017年12月11日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 8,299,426円
受取利息	△ 922,829
支払利息	△ 7,376,597
(B) 有価証券売買損益	△ 2,491
売買損	△ 2,491
(C) その他費用	△ 174,287
(D) 当期損益金(A + B + C)	△ 8,476,204
(E) 前期繰越損益金	16,325,703
(F) 解約差損益金	△ 3,147,995
(G) 追加信託差損益金	11,059,860
(H) 合計(D + E + F + G)	15,761,364
次期繰越損益金(H)	15,761,364

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。